



かつしか人

若い力が活躍!

区内で地域のためにひた向きに活動したり、スポーツや文化・芸術に一生懸命取り組んだりしている若い世代の方を紹介します。

【担当課】 広報課 ☎03 - 5654 - 8116

えび **な** **せい** **や** **さん**
蝦 **名** **聖** **也** さん

余命3カ月の白血病を乗り越え、体に優しい食材を使った料理で地元へ貢献したいと、令和3年11月、立石にカフェをオープンした。メニューには豆乳のスープやパスタ、こだわりの野菜を使用したサラダなどがある。

【所在地】 CAFE & DINING「SOY LOVE U」(立石4 - 1 - 11)

撮影のために一時的にマスクを外しています。

白血病になった僕が今できること

～感謝の想いを料理に込めて～

1 story 葛飾で生まれ育ち、ひた向きに生きる

僕はお花茶屋で生まれ育ち、大学卒業後、よつぎ小学校で心身に障害のある児童をサポートする、スキルアップ指導員として4年間働いた後、子どもの頃から続けてきた俳優の仕事の本格的に始めました。

俳優として活動していくうちに、より直接的に人を喜ばせたいと思うようになり、芸能界をめざす方の夢を叶えるサポートをする仕事に転職しました。誰かの夢が叶い、喜んでもらえることが嬉しくて、数カ月で営業のトップとなるほど、夢中になって働きました。

2 story 余命宣告を受けても、前を向く

「白血病の末期です」。僕は食事や睡眠時間も犠牲にした生活に、身体が悲鳴を上げていたことに気付きませんでした。救急車で運ばれた後、移植手術を受けましたが、早期に再発してしまいました。29歳で余命3カ月と苦しい現実を突き付けられ、母に「今日だけは泣いてもいい?」と言って一日中泣きました。

けれど、次の日には「大好きな人たちのために生きたい」と、家族に複数のセカンドオピニオンの先生の所に行ってもらい、僕は無菌室から電話で参加して治療法を探しました。諦めずに病院を探し続け、7つ目の病院で成功する可能性があると言われて、兵庫県まで母と一緒に2度目の移植手術を受けに強い気持ちとともに向かいました。

手術は無事終わりましたが、長期間におよぶ過酷な治療で、皮膚障害や嘔吐、さまざまな痛みが同時に起こる壮絶な日々が待っていました。どうしたらこのような症状が改善できるかと調べ尽くし、たどり着いたのが僕の場合、SOY(大豆)でした。入院中は、大豆はもちろんのこと、栄養バランスを考えた母の手料理に支えられ、余命3カ月と宣告されたあの日から4年、今も元気に生きることができています。



3 story 自身の経験を生かし、カフェを開く



「それなら自分たちで作ろう」と支えてくれる仲間と一緒に内装やテーブル、イスなどを作り、想いのこもったお店にすることができました。

4 story カフェで働く私の“今とこれから”

小さい頃から料理をすることが好きで、僕が作った料理をお客さんが美味しいと、笑顔で喜んでくれることにやりがいを感じています。まだ身体の状態が万全ではないので、周りの人に助けをもらいながら無理なく楽しく働いています。

コロナ禍で今までと同じような生活をするのは難しいですが、僕のお店がどなたかの安心できる場所となり、身体にも心にも優しい空間となってくれたらうれしいです。

これからも助け合いながら、感謝の想いを持って、お世話になった葛飾を盛り上げていきたいです。



記事に関連する区の取り組み紹介

▶ 創業塾



▶ 食・栄養の
関連情報

